

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕
高知大学病院ニュース
編集委員会
委員長 花崎 和弘
〔発行人〕
高知大学医学部附属病院
病院長 杉浦 哲朗

『先端医療学コース』について

先端医療学推進センター長 本家 孝一

1 医学部の研究離れと医療専門学校化

行政改革の一貫として国立大学は法人化されたため、運営費交付金と教職員数の削減という交換条件が付きましました。このため、運営費交付金の減少分を附属病院の収入で補うべく、臨床系教員は医療活動に忙殺され、研究に充てる時間が減少しています。さらにもっと危惧されることは、臨床系教員数を担保するために、基礎医学が縮小していることです。このように、大学使命の片翼である研究のアクティビティーは凋落の運命をたどっているといえます。

大学のもう一方の翼である教育はどうでしょうか？医学部は伝統的に包括的なカリキュラムで教育を行ってきましたが、モデルコアカリキュラムの導入で画一化が進みました。本来、コアカリキュラムはカリキュラム全体の3分の2で、残りの3分の1は各大学で個性的な選択カリキュラムを行うフレームワークになっていましたが、学生の関心は、もっぱら、CBT、OSCE、そして医師国家試験にあるため、選択カリキュラムは実のあるものになっていないのが現状です。このため、医学部は医療専門学校化し、皮相的な診療技術と医療知識の詰め込みに腐心し、リベラルアーツやサイエンスに関心を抱く学生は少ないのです。

2 先端医療学推進センターの設立

このままでは、わが国の基礎医学研究は廃れ、つづいて臨床医学研究も廃れ、ひいては医学教育も崩壊するでしょう。この流れを止めるために、医学部の使命である最先端医療の開発と、リサーチマインドをもった医師・医学者の育成を目的とする研究活動拠点として、平成21年9月、本学に『先端医療学推進センター』が設置されました。先端医療学推進センターは、専門分野の異なる基礎医学者と臨床医が協働して、高知大学オリジナルの基礎的知見に基づいたトランスレショナルリサーチを推進するとともに、先端医療開発の現場において、医学部の学生に、研究の面白さと必要性を実感させる道場としての役割を担います。

3 先端医療学コースの開講

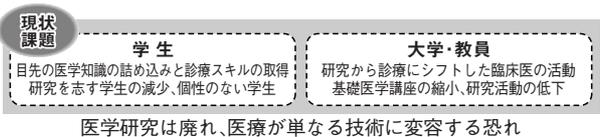
先端医療学推進センターは平成22年度からリサーチコースの学生受入れを開始しましたが、平成23年度の2年生から、正課の『先端医療学コース』を開講しました。学生はPBLコースか先端医療学コースを選択することとなります。2年生から4年生の3年間、先端医療学推進センターの希望の研究班に所属して特定の課題について研究することにより、課題探求能力を養うのです。いわば、“早期研究体験学習”です。モチベーションが高く、頭脳の柔軟な20歳前後の時期に、単なる座学ではない研究体験を通して、自ら深く思考する訓練は貴重な



先端医療学コース 所属学生と担当教員

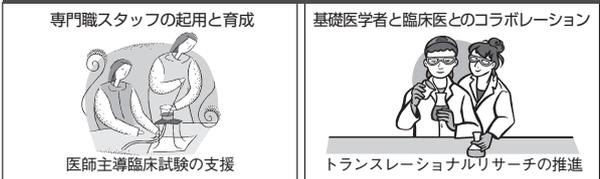
糧となるでしょう。平成23年度は17人の学生が先端医療学コースを履修しています。4年生の年度末に研究成果を論文にまとめて発表し、十分な基礎学力と研究成果を得たと判断されると単位認定されます。優秀な学生を表彰する顕彰制度もあります。先端医療学コースのような医学教育における早期研究体験学習は、全国的にもユニークなカリキュラムであり、コアカリキュラムを補完する個性的な教育プログラムとなるでしょう。

最先端医療開発研究現場で実践するアクティブラーニング

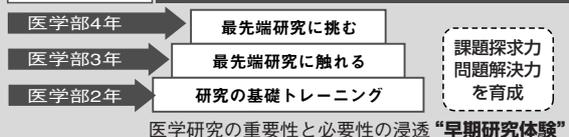


解決策

先端医療学推進センターの創設



先端医療学コース 先端医療開発現場でのアクティブラーニング



主体的でリサーチマインドを持った医師・医学者の育成
 医学部の研究活性化
 世界に、地域に貢献する先端医療の実用化

新任のご挨拶

内分泌代謝・腎臓内科学 教授
藤本 新平



「高知県における糖尿病拠点の形成にむけて」

平 成23年9月1日付けで、内分泌代謝・腎臓内科の糖尿病・代謝領域の教授として着任致しました。当面の間は、寺田典生教授とともに診療・教育に従事致します。

私 は、これまでの経験から、糖尿病を専門とする医師は幅広い視野と見識が、新しい取り組みや診療レベルの維持に必須と考えております。糖尿病診療は基礎医学の発展と連動し、薬物介入を例にとっても近年目覚ましく進歩をとげました。また大規模臨床研究の進展により治療の理念も大きく変化しました。さらに糖尿病診療は医師のみでなく他職種と連携したチーム医療が不可欠で、高齢化社会の進展・糖尿病患者の著しい増加に伴い病診・地域連携の構築が必須です。私はこのような糖尿病分野の多層的で大きな変化を、学生・研修医に情熱をもって伝えていくことが臨床医学全体の基盤形成に重要と考えます。また人類への大きな脅威となり国連決議にも採択された糖尿病に対して、将来の糖尿病診療の発展を担う人材を育成していくことも重要です。広い視野をもった高度医療人の育成には、教育・研究・診療に心血を注いでいる大学病院こそが中核となることが不可欠と考えます。私は、若手医師の糖尿病分野の診療・研究指導の経験を生かし、人材育成に全力で取り組む所存です。私は2型糖尿病の病因であるインスリン分泌障害の機序について、臨床・基礎両面より一貫して研究して参りました。私は、臨床医学の基盤形成には基礎研究者のみならず臨床家の視点にたった病態解明が臨床への還元のため必須と考えています。2型糖尿病の病態代謝学的解明と対策を基礎研究、臨床研究両面から広い視点で発展させたいと考えます。

診 療面では、進歩の著しい糖尿病診療を反映し、最新のエビデンスに基づく糖尿病治療の実践、患者中心の看護師・管理栄養士・薬剤師・運動療法士・臨床検査技師と連携したチーム医療の実践、他科領域との有機的連携、糖尿病専門医・糖尿病療養指導士の育成、臨床栄養学的アプローチ重視の疾患治療の実践、地域医療における糖尿病啓発活動の推進、糖尿病患者会活動・糖尿病協会活動の支援などに取り組み、高知県における糖尿病診療の拠点としての責務を果たしたいと考えます。拠点形成に向けては、医局の先生方、高知大学における他科・他領域の先生方、県下で糖尿病診療にあたられている先生方、コメディカルの皆様のご助力が必須であり、ご指導お願い申し上げます。



高知大学卒業臨床研修プログラム
石元 達士 (いしもと たつし)

高校を卒業してから、11年ぶりに高知に帰ってきました。久しぶりに過ごす高知での毎日はとても刺激的です。とにかく熱いし、台風は来るし、そして人間が暖かいです。帰ってきて本当に良かったです。研修頑張ります。



高知大学卒業臨床研修プログラム
浦 浩之 (うら ひろゆき)

4月1日付で入職させていただきました。浦浩之と申します。実家は鹿児島県です。高知にきた時は梅雨の大雨に驚いたことを覚えています。仕事初めは、色々なしきたりやルールにとまどうことが多かったですが、徐々に馴染んでいこうと思います。病院開設より30余年、先人が築いてきた信頼に恥じぬように頑張ってます。よろしくお願いたします。



高知大学卒業臨床研修プログラム
大浦 康孝 (おおうら やすたか)

はじめまして、今年から高知大学医学部附属病院で研修医として勤務させて頂いています。大浦康孝と申します。大阪に生まれ京都で学び少し東京で人生の寄り道をしてから高知大学で6年間医学を学びました。水泳で培った持久力(?)を活かして頑張りますので、よろしくお願いたします。



高知大学卒業臨床研修プログラム
川本 常喬 (かわもと のぶたか)

私は学生時代は全く勉強しておらず、医師と名乗るのが非常に申し訳ない状態で研修医をスタートしました。そのため、ローテート先では御迷惑ばかりをおかけして本当に申し訳ありませんでした。しかし、こんな私のために貴重な御時間を割いて丁寧に教えてくださる医療従事者の皆様方には非常に感謝しており、この病院で研修させてもらうことができよかったです。少しずつではありますが、皆様のように素晴らしい医療従事者になれるように日々精進していきたいです。今後ともご指導の程、宜しくお願致します。



高知大学卒業臨床研修プログラム
高谷 将悟 (たかや しょうご)

岡山県出身で高知大学医学部を卒業しました。私のモットーは人と笑顔で接する事です。仕事ができずご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、笑ってごまかしているわけではありません。見かけたときはお気軽に声をかけてください。



高知大学卒業臨床研修プログラム
池 成基 (ち せんぎ)

研修医1年目のChiです。高知大学を卒業し、そのまま附属病院で研修することとなりました。科を問わず多くの先生方から懇意にいただき、毎日暖かいご指導を賜っております。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



高知大学卒業臨床研修プログラム
星野 悠介 (ほしの ゆうすけ)

7月に長男が生まれ2児の父になり、それに合わせて育休をとりました。二か月の主夫生活を終えて研修に復帰しています。今後も家庭と仕事とのバランスをとりながら頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



高知大学卒業臨床研修プログラム
本多 康人 (ほんだ やすひと)

この4月から高知大学の研修医となりました本多康人と申します。大学病院での研修を通じて、患者さんやその御家族、さらには病院スタッフからも信頼される医師になりたいと思っております。まだまだ未熟者ですが、よろしくお願ひいたします。



高知大学卒業臨床研修プログラム
山中 大樹 (やまなか だいき)

同期や先輩がたのアドバイスに日々助けられています。手技や業務など覚えることは多いですが、1つずつ着実にこなせるように努力していきます。



高知大学産婦人科重点研修プログラム
森田 聡美 (もりた さとみ)

はじめまして、川崎医科大学卒、研修医一年目の森田聡美です。大学ではjazz研究会(トランプ担当)と水泳部に所属してました。

2年間笑顔キープで研修していきたいです。宜しくお願いします(^^)



高知大学・近森病院複合研修プログラム
梅下 仁 (うめた じん)

僕は「たすきがけコース」で現在近森病院で研修をさせていただいております。

近森では充実した研修をさせていただいております。来年の大学での研修では近森病院とは違った部分も勉強させていただきたいと思っております。



高知大学・高知医療センター複合研修プログラム
菅 健太郎 (すが けんたろう)

医療センターで研修中の菅健太郎です。高知大では珍しく熊本出身です。

大学6年を高知で過ごし、人の温かさ、自然に魅せられ高知に残ろうと決意しました。

医師としてはまだまだ未熟者ですが、九州男児のやる気と気合だけは誰にも負けないよう、一生懸命頑張っていきたいと思ひます。



高知大学・高知医療センター複合研修プログラム
濱田 史泰 (はまだ ふみひろ)

出身大学は高知大学で育ちも高知という縁で卒業後も高知県でお世話になることになりました。

社会人1年目で分からないことばかりですが、一人前の医師になれるよう務めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



高知大学・高知医療センター複合研修プログラム
葺石 陽亮 (ふくいし ようすけ)

毎日楽しく研修させていただいております。初期研修医の葺石陽亮です。奈良県出身で高知大学卒です。

学生時代はずっと野球部に所属していました。やる気と体力には自信があります!! よろしくお願ひします。



高知大学・高知医療センター複合研修プログラム
山本 慎平 (やまもと しんぺい)

はじめまして。研修一年目山本慎平と申します。私は出身も高知県でして、高知の大自然、温かい人間性が大好きで初期研修も高知県で行うことにいたしました。

一日一日を無駄にせず全力で研修に取り組むとともに、私達若い世代が高知の医療を盛り上げていけるよう努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



高知大学歯科臨床研修プログラム(単独型)
長崎 敦洋 (ながさき あつひろ)

はじめまして。研修医の長崎です。大学6年間は広島で過ごし、久しぶりに高知に帰ってきました。多くの技術と知識を吸収し、少しでも地元高知のお役に立てるように頑張ります。宜しくお願い致します。



高知大学歯科臨床研修プログラム(複合型)
植垣 真帆 (うえがき まほ)

周りの先生方やスタッフの方々に教えていただいたり、患者さんと接する事で学ばせてもらう事が沢山あります。

患者さん一人一人が自分を成長させてくださるという気持ちでこれからも頑張っていきたいと思ひます。

職場紹介 手術部

手 術部は、部長(深谷孝夫教授)1名、副部長(山崎一郎講師)1名、助教(李康広助教)1名、師長(弘末正美師長)以下看護師38名、臨床工学技士5名、受付事務員1名、洗浄・看護補助業務職員5名、清掃作業員4名から成り、分業による効率的な運営に努めています。

手 術部の合言葉は、「安全第一」です。手術部入室時のPHSでの患者認証100%、手術野異物遺残防止のためのレントゲン撮影、手術前確認記録とタイムアウト*の運用、患者さんの手術室へ直接入室等を導入し、日々の業務に取り組んでいます。

高 知大学医学部附属病院が、がん拠点病院として診療に取り組んでいる結果、手術件数は年々増加し、2010年は4415件に達しました。手術はチームワークがとても重要で、医師が手術に集中できるように心がけています。看護師から各々が担当する診療科を紹介します。

*タイムアウト:麻酔前または執刀前には、医師と看護師が一齐に手を止めて、手術部位、アレルギー、特殊オーダー(インプラントなど)、体位、血液型、輸血準備、自己血輸血準備、抗菌薬投与、深部静脈血栓予防対策の項目について確認作業を行うこと



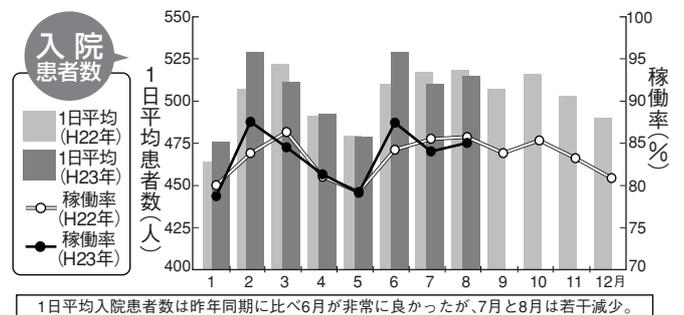
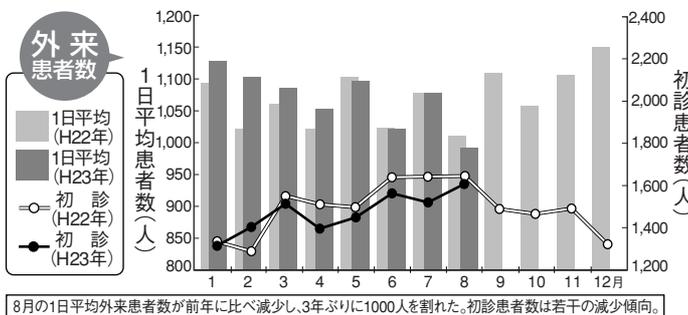
前列左から3人目より、李助教、深谷部長、弘末師長、山崎副部長

- 麻酔科** まかせて安心、術中管理のエキスパート、縁の下の力持ち。
- 眼 科** 手術件数は断トツ! 澄んだ瞳でアイコンタクトとり、患者さんにeyeを持って接しています。
- 外科1** 外科心得10カ条の信念のもと、Safety, Smart, Smileで手術を行うSpecialistsが勢ぞろい!
- 外科2** チームで患者さんの身体とハートを癒しています。
- 形成外科** 少数精鋭、他科からも引っ張りだこの売れっ子集団! 乳房再建もやっています!
- 産科婦人科** 元気に赤ちゃん生まれます。エコチル調査も始まりました。
- 歯科口腔外科** お口の安全守ります。我ら口腔自衛隊。キーン、キーンの音の元へ全員集合!

- 耳鼻咽喉科** 首から上はおまかせ!(眼と脳は違いました。)フットワーク軽く、かつ繊細に、5感フルパワーで手術しています。他科とのコラボ手術もしています。
- 整形外科** 体育会系の医師と共に運動器の機能に関わる疾患の手術を行っています。取り戻せ、患者さんのQuality of Life!
- 脳神経外科** 繊細なテクニックで患者さんの脳を守っています。
- 泌尿器科** (ひ)人には言えない(によ)尿の悩み、(き)今日でさよなら(か)カメラを操る匠達が先進医療で解決します。
- 皮膚科** ♪(「マルモのおきて」のリズムで)つつつるびかぴかニコリ笑顔。お肌のトラブル何でも解決よ。できもの、ホクロに何でも取るよ!

まだまだ取り組む課題は沢山ありますが、患者さんに安全で快適な手術を提供できるよう、少しずつでも前進していきます。今後もご支援よろしくお願ひします。

診療状況



編集後記

私事の経験で恐縮ですが、9月初旬に認知症関連の国際学会出席のため欧州に出かけました。その際立ち寄った有名な国際空港では手荷物を預ける作業を機械がしています。しかし私の場合、重量オーバーで機械が受け付けず、サービスカウンターに行けとの機械の指示があり、カウンターの女性のもとへ笑顔で行きました。がここからが大変でした。その女性は指さしてここに置けと仕草をしています。指示通りに置いて待っているとそっぽを向いて何も言わないのです。同僚が来てくれて、「手荷物重量制限はオーバーしていないので料金不要」と聞いてくれましたが、その女性からは何も説明もなく、顔を背けて無

視をするだけです。どうみても私よりかなりの年下です。いろいろな感情が湧きましたが、そこでふと病院に来る患者さんはきっとこんな感覚なのだろうと感じました。不安を持ちながら「医師の説明を聞いても訳がわからない」、「分からないことを、何がわからないかと伝え方がわからない」のでは、とそんな気持ちになりました。この時、自分自身の病院勤務態度を振り返り、もっと、患者さんや家族に丁寧に、相手の分かる言葉で説明を尽くす、優しく声をかける、視線を合わせることの重要性を再認識しました。今回の経験を病院職員としての対応能力向上に役立てたいと思います。

(文責: 上村 直人)